

第1回「ふくまる夢たまごセミナー(開塾式)」

平成23年度にスタートした「ふくまる教志塾」が11年目を迎えました。

今年度は、2名の聴講生を含む19名の塾生が受講します。開塾式に先立って、6月14日(月)にオンラインによる「現場実習ガイダンス」を、7月16日(金)に開塾式と第1回セミナーを開催しました。

日 時	7月16日(金) 18:00~20:00
場 所	池田市庁舎6階第4会議室
内 容	①開塾の挨拶 池田市教育委員会教育部長 大賀健司 ②記念講演 演題 教師をめざすみなさんへ ～どんなバトンを受け取りますか?～ 講師 鎌田 富夫 氏 (元池田市立池田小学校長) ③閉 会

【開塾の挨拶】

開塾式では、池田市教育委員会大賀教育部長より「これまでに370名近くの塾生が、このふくまる教志塾で学び、体験し、今日多くの方が教壇に立っておられます。みなさんも11期生として、教師という職をめざそうとする志をより豊かにするとともに、人間としての成長、教職をめざす者としての識見、指導力等の向上を図っていただくことを願います。併せて池田に愛着を持ち、池田のことを深く知る機会にして欲しいと思っています。」と、塾生に対して期待と励ましの挨拶をいただきました。

【記念講演】



昨年度に引き続き、元池田市立池田小学校長 鎌田富夫先生に講演していただきました。

「教師をめざすみなさんへ～どんなバトンを受け取りますか?～」と題し、豊かな経験と様々な資料をもとに、教師に引き継ぎたい資質や能力をバトンにたとえ、映像や画像、エピソードを交えながら、具体的にわかりやすく、そして熱く語られました。

講演の概要は以下の通り。(鎌田先生のレジュメより)

1. はじめに
 - (1) 「ドラゴン桜」にあつて〇〇にないもの
 - (2) 「教師のバトン」プロジェクト (文部科学省)
2. 「教育は『共育』」というバトン
 - 「平等」と「公平」
3. 「反面教師に学ぶ」というバトン
 - 現場実習で何を学ぶか
4. 「『覚悟』と『寛容さ』というバトン」
 - (1) 教師の仕事は「五つのワーク」
 - (2) 教師の「覚悟」とは？
 - (3) 教育の「寛容さ」とは？
5. 「『いごこち』より『しごこち』」というバトン
 - しごこちのいい学校
6. 「教育はアナログ」というバトン
 - 「デジタル化の罠」
 - 教育の醍醐味はアナログ的要素を大事にするところにある
7. 「教育は人なり」というバトン
 - 「教育は人育てなり」
 - 「教師が最大の教育環境」という自覚を
8. その他
 - ・「教育の不易」
 - ・「学校の『働き方改革』」

冒頭の「教育の不易とは？」との問いかけに、塾生は「知識や経験」「人と人とのつながり」「子ども理解」「子どもへの愛情」「人権感覚」「子どもの主体性を大切に」「子ども一人ひとりに寄り添う」と答える等、さすが教師をめざす塾生だなと感心しました。



鎌田先生の考えるバトンは、①「教育は『共育』」②「反面教師に学ぶ」③「『覚悟』と『寛容さ』」④「『いごごち』より『しごごち』」⑤「教育はアナログ」⑥「教育は人なり」というもの。

「教育は、子どもが一番輝く場所を共に探すこと」「教師ほど犯罪的な職業は無い」「教師の五つのワークとは、ヘッドワーク・ハンドワーク・フットワーク・チームワーク・ネットワーク」「教師とは遊び心(ユーモア)が必要」「教育の醍醐味はアナログ的要素を大事にするところにある」「教師が最大の教育環境」などの言葉が塾生一人ひとりの心に残ったのではないのでしょうか。最後に、学校の働き方改革についての班別協議でセミナーを終えました。

【塾生の感想より】

今日のセミナーで心に残ったことが二つあります。まず一つ目は、教育とは遊びの延長上にあるものだという事です。教育はただ真面目にするのではなく、ユーモアも含めて教育をすることが大切なんだと学ぶことができました。二つ目は、教育の醍醐味はアナログ的要素だということです。改めて、教育というのは人と人とのつながり、子どもとの関わりが大切だと気付くことができました。

改めて、教師になりたいと強く思うことができました。



今日はたくさんのバトンの話を聞きましたが、講演の中で特に印象に残っているものは「教師ほど犯罪的な職業は無い」という一文です。「言葉一つで子どもをだめにすることもある。」
「良かれと思ってやっていることが時には迷惑になる。」『狂育』などとい

う話を聞いて、子どもの将来を左右する強い影響力を及ぼす職に就こうとしている覚悟を改めて考えさせられました。

講演の中で最も印象に残ったものの一つが「鉄」という漢字についてでした。「こうしなければならない」「正解はこうだ」という考えにとらわれず、子どもがなぜそう考えたのかを知り、理解し、その発想力や考えを評価し理解することができる教師でありたいと考えました。教師は人を育てる職業であり、時には嫌われることもあるかもしれないけれど、子どものために力を注ぎたいと思いました。

一番心に響いた言葉は『「できない」と言うのではなく、「どうしたらできるか」考えよ』です。現在「予測不可能な社会」と言われ、この先子どもも社会もどんどん変わっていきますし、コロナのような急な変化が起こるかもしれません。その時に、いかに「どうしたらできるか」を考えることが、これからの教師に必要なものだと感じました。